

漁氏流活花記人

東南村
宗野氏藏書



源氏

活花記

會席
人
畫式





源氏活花記下

偏屈

花ヲ沢山ニ生ルハ凡雅ニアラズサシバカリヲ愛スルモノナリ
 猥ニ花ヲ伐取ベカズト云フ者アリ如何答高ク是モ偏屈ニシテ
 大道ニアラス山行幽栖ナルモノ四時花ニ富ヨリタシク向フアラバ
 是ガタノニ回看ノオヨバサル一校ヲ折テ饗應何ク其深老カリ
 シンヤ市中ニスル者ハ花ニ疎シ珍シケレハ沢山ニモ生ベシ
 マシテ寺院ノ嚴^{カガリ}ニ寂莫ヲイトラテ一トス故ニ花沢山ニモ
 生ベシカ座敷ニ置テ其堂ノ席ニハ花一輪ニテモ活ベシ時ノ
 宜ニ随テ達人トハ云フニ尤沢山ニ生タルトラ自伐モノニハ

科

アラスカ辺鄙双林、柘モハ花ヲ伐出シテ業トシ市店ヲ獨り
露命ノ數系ガモノモアリ花ノ伐科、コシヲ人ヲ助徳アリ草木
心ヲシトイハトモ深山ノ埋本モ世ニ出ナバ何ゾ本意ナカラシ
ヤ神ノ神ヲ採リ佛ノ薪ヲ推シ願ミヨイカデ谷ヲ冠ナリヤ又気性
ニテ法ルカ花ナリトテ出生ヲ知ズ只陰陽ノ花斗ツカテ抛ナリ
ト覺ヘタルモ皆古法シシラカルナリタトヘ一モトニテモ出生シ
背ヲ法ラシテハ抛入生花ヲ詮ナシヨウテハ座敷敷奇屋葺ノ
花形又草木ノ出生不出生シカテ畵画シテ初心ノ疑惑ヲ解セ
シムルナリ

蓮華

梵語曼陀羅華
本名芙蓉蓮ノ実
ノ名ナリ荷ノ葉ヲ云フ
ナリ蜂葉ハ其房ヨリ
ナリ

好テ一花一葉シイケル中ハ
如此類ノ出生ナルモノヲ
ツカフ法方羽アリ



朝鮮薔薇

如此類花モ葉ヲ數アルモノシ
 一花ニ葉ニ添ル一別ニ習アリ
 好テ生ルコトアリズ一ニ芳物ノ
 始コトテ大極ノ一息ナリ花ト
 葉トコトテ陰陽ヲワケテツカラ
 事通例ノ傳ナリ妻シキ
 生カク別傳アリ



東山源君御前ニテ或ル時予先祖
 行胤ニ命シテ大廣口ニ水十分ニ
 入タルニ花一モト入レヨト仰アリシニ
 取敢テ花ハサミテ花ノモトヘ器ノ
 如クコシテ抛入ケルニ一齣ナリトテ
 御賞美アリシトナリ
 甚後世々ノ茶ノ白お近ナドモ
 ナカフカハヒナドワサシテナゲ
 入レシナリ是則抛入花
 ノハジメナラシ



蘭草

沢蘭ニ似たり
フザガマト云フ



水河骨

澤蓬草トモ云

如此大鉢ハナドコ入ルコト
クサリコト云テ花ノモトヲ留ル



擬寶珠 玉簪花
白霍仙

麗春花

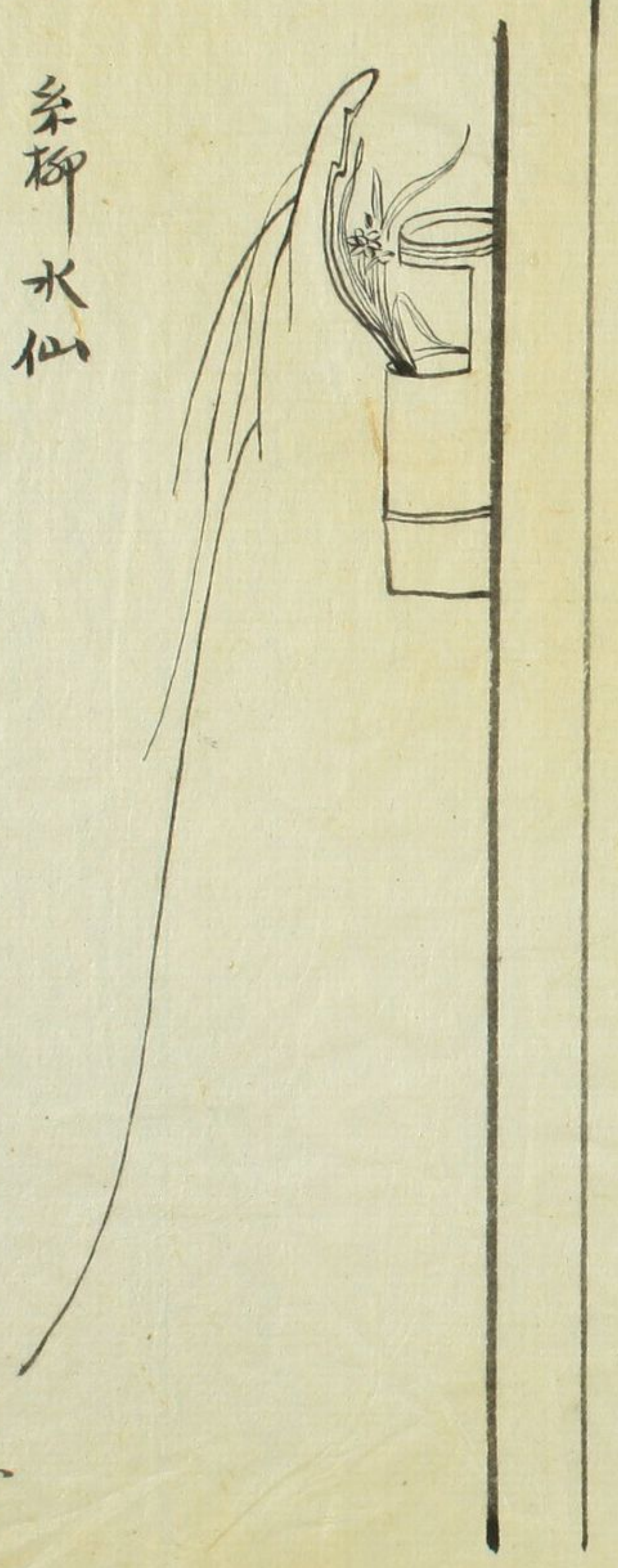
不肖草

俗ニ云フ処
美人草



一重切 糸柳 水仙

柳モ品々アレ氏糸柳ハシカリ柳ヲハ長シ糸柳 到東セシ時老ヲ
切ラシテヲオシミテ 折針ヲ高ク打テカケルテアリ 柳ヲムスビテ
沃ルテモアレ氏 是ハ却テ生ニ花ニ 序意シ叶ヒガタシ老ト
姿ト同シキコソマコトノ花ナルベシ



古代形

重椀二重切

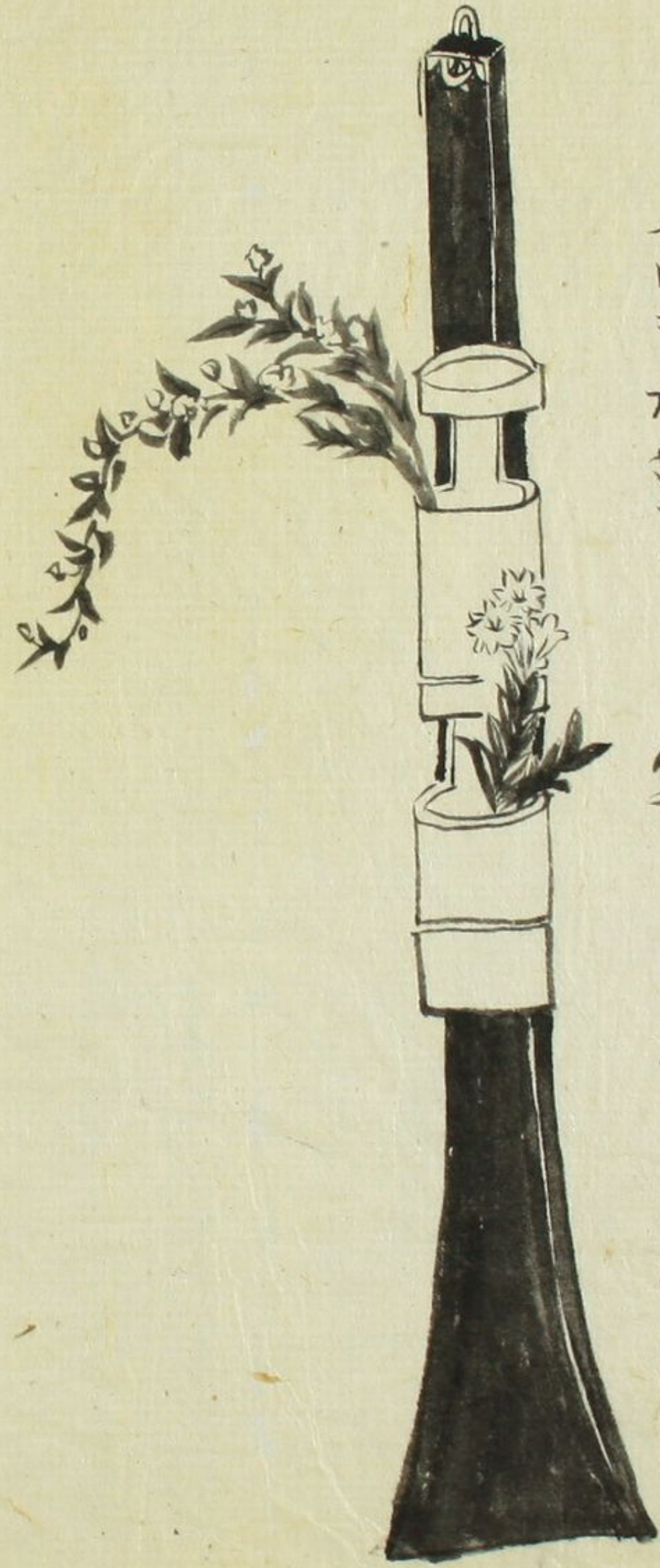
上重 棊棠マダギキ

又 酢麩ドビウ

下重 春龍膽ハルリシドウ

春桂ハルケイ

二重切ニツ釣瓶等、上ニ本下ニ草ヲ生レテ通
例ナリ然レ其時節花ノ取合格好クナリテ草木
上下ノ差別ハナシ其故ハ高山ノ峯ニモ池水
アリテ水草モ生ジ出テア本モ平地ノ水辺ニモ



生ズルナリ一瓶ノ中ナラ其外ナシ草ニ年切テ又モ延
ズル木ハ五寸ニテモ其草ノモトハア咲クナリ

懸板

山石蘭

花器石壺



寒菊

花器 無水



すき、石竹



夕顔

本名瓠^コ
又瓢^{ヒヤウ}



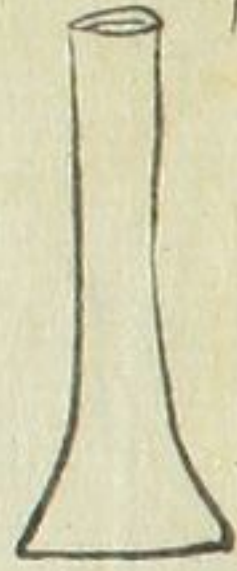


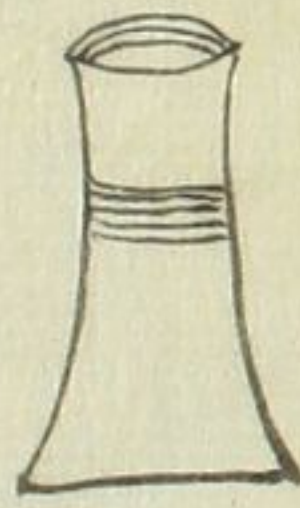
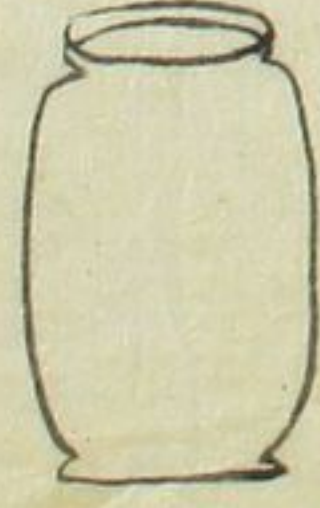

椿柳

如此舟形こそアラス
イロクアリ油サシナ
ド、名附ケテ専ラ
用フ好^コ後^コれ付ケ
テモ^ルシカラズ

三重切 上連翹 中椿 下水仙

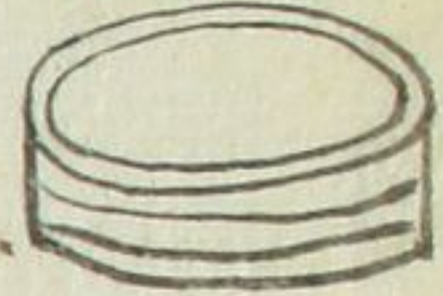


源氏花器幸四品ノ内專枕者古用ル行草ノ形鏡ニ及ビ面不

<p>御草</p> 	<p>桐壺</p> 
<p>真木柱</p> 	<p>空蟬</p> 
<p>胡蝶</p> 	<p>若紫</p> 

源氏真ノ花器幸四品トモ悉同シ物ニアラズ金銀銅鍍竹木
 陶籠魚量ナリ真ノ形ハ秘事タレカ故花尊ノ畠形モ出サ右ニ
 畠セシハ真ノ花入ノヤツシナリ書院數奇屋尊花器古実寸法有
 リ

形丸
高ハル丸
三寸程

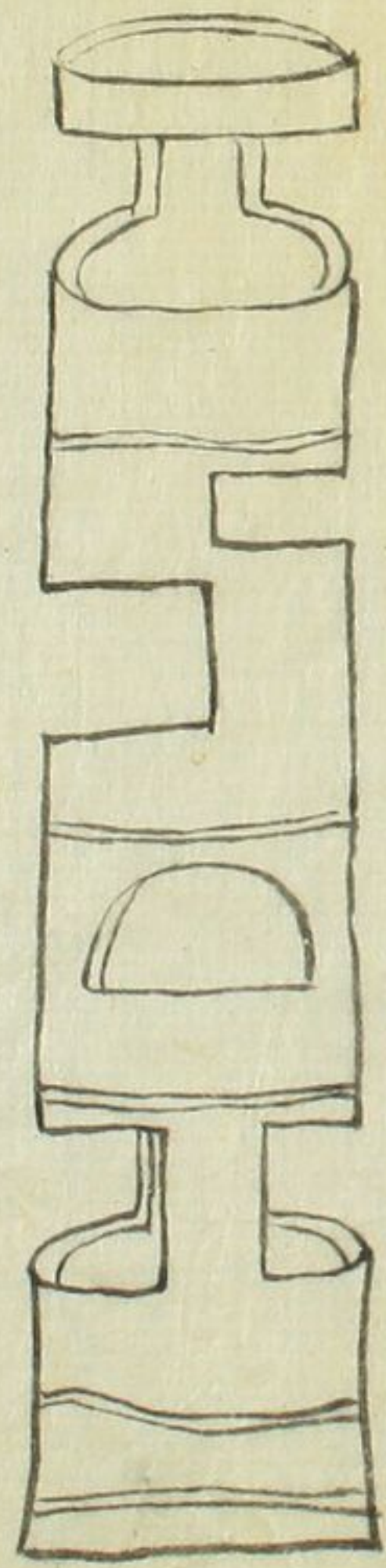


ジキロウガタ

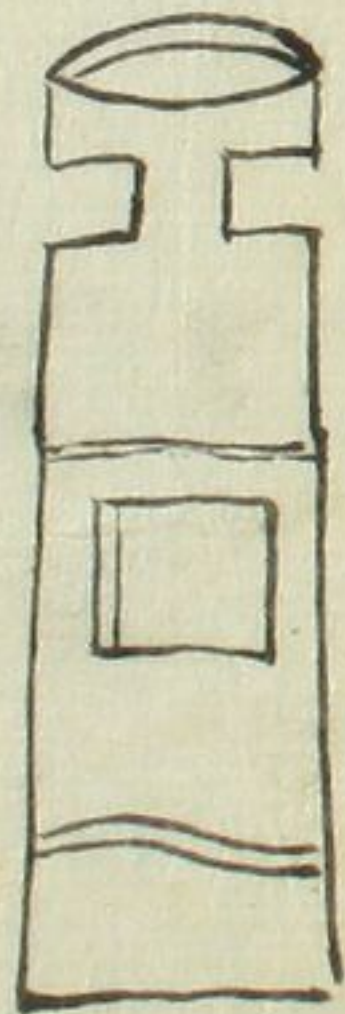
如番花器 食籠形ト名付ク予工夫ノ形ナリ或時暑中ニ
浅澤ノ気色ヲ眺望ニ是ヲ製ラセ活方ヲ定ム又
樂燒ニテ作り内人周佳ニ与テ夫ヨリ以美第督吉

ニ專用ニ樂燒ノ花器ヲ用ルルヲ往昔ナキヲナシトモ活花中絶
シテ書院ノ花入サ々所持人希ナレ故秋首在ノタメニ海氏行草
ノ花器ノ形ヲ造ラセ用ニ近頃餘流ト号ケ專予カ好ニノ樂燒等ノ
花入ヲ用ユ古ヨリ活花ニ流ナシ然レバ予ガ用ル所ヲ學ニ似タ
リ幸ナルカサ此道世ニ弘メント志ストキ至シルナレト本意
スクナカズニ猶此道ノ永ク傳ラシトテ希フノニ

五重切



二重ヤガラ

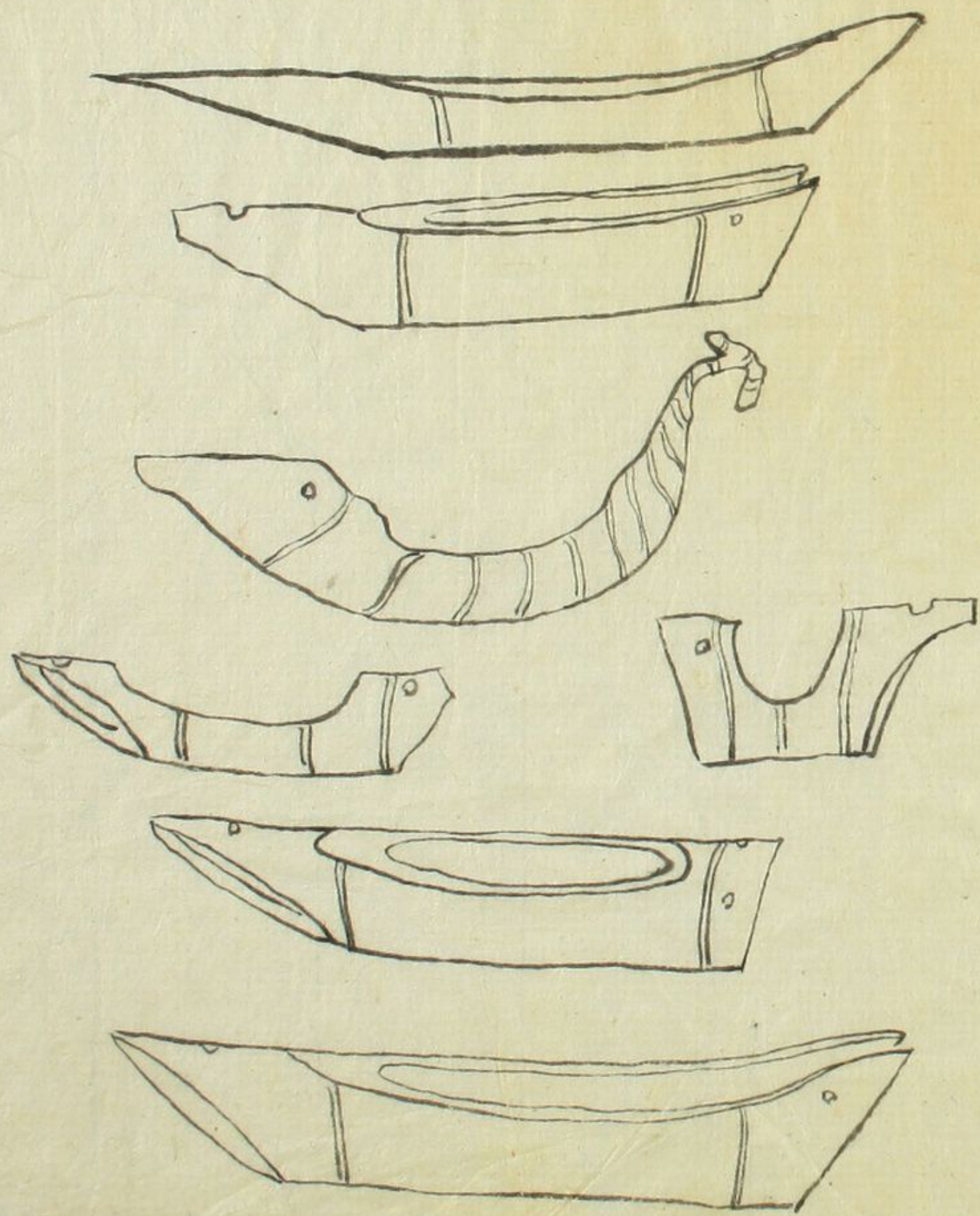


手桶切

一重ヤガラ

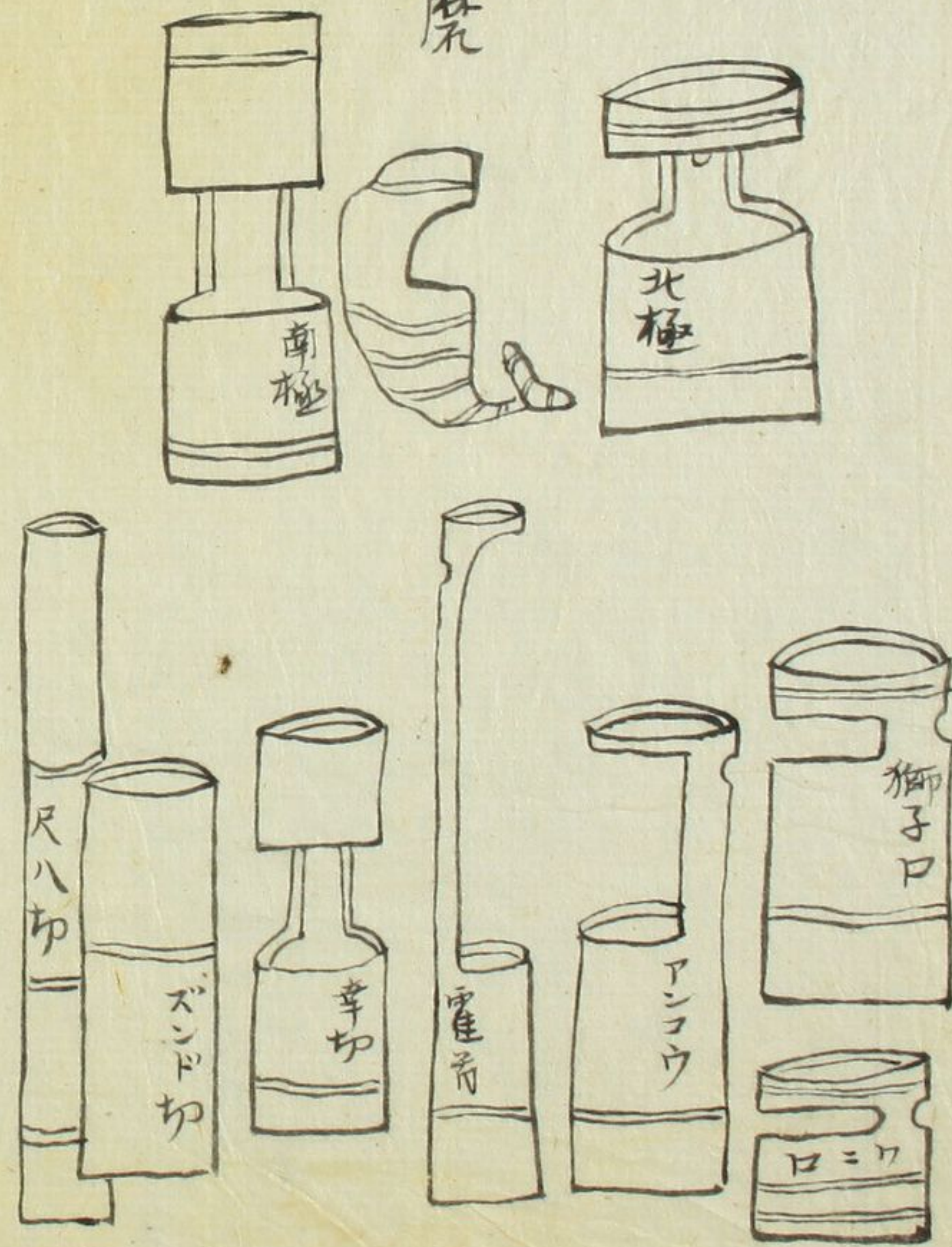


船



惣名一重切

度磨



生花ハ活物ヲ御食應トスル故ニハケカクモ出生シオアトスシカレ共
 本文ノ記ス通り活花中絶シテ人々ノ作意ニヨリテイケル花ハ
 出生シ相違アリ形ヲ作リテイケルモアリ枝葉ヲモギ取切折テ
 大リンナルモノヲ短クシテ流ケルモアリ又其後過テ産ノマシラ
 イケルモアリ比由是活花ノ作法ト^{シテ}生ノ理^ニクフキ所作ナリ都テ
 草木トモコ葉生シテ花咲故ニ花ヲ葉ヲ多クツカフハ出生
 ナリ尤葉ツカヒコ叶白アリ杜若^{シラシ}紫園ノ類モ葉ヲソヘテツカフ
 ヨリヲた^シ五ニ種ヲ箇シテ万本千草ノ出生ノ理ヲ心シ置也
 諸花是ニ順ジテツカフベキナリ

椿長短ノ事

椿ニ花^ハコラハ水際
 モトテ短クツカフ故ニ
 生花ニテモ其心得ル
 人多クシ活花ニテハ短
 クモ長クモツカフナリ
 椿^ハ大木アレバ長クモ
 ツカフテクルシカラズ
 切株^ハ芽出デ一寸ニ
 寸^ハテモ花咲クマタ
 サシ枝^ハモ花咲ク
 物故ニ短クモ遠ク
 ナリ長短ハ其格
 好ニヨリテツカフベシ



シユウロ
稷 欄

如此ハ
出生ナリ



如此花ト葉
バカリ取テツカ
フリ出生コト
ヒカタシ

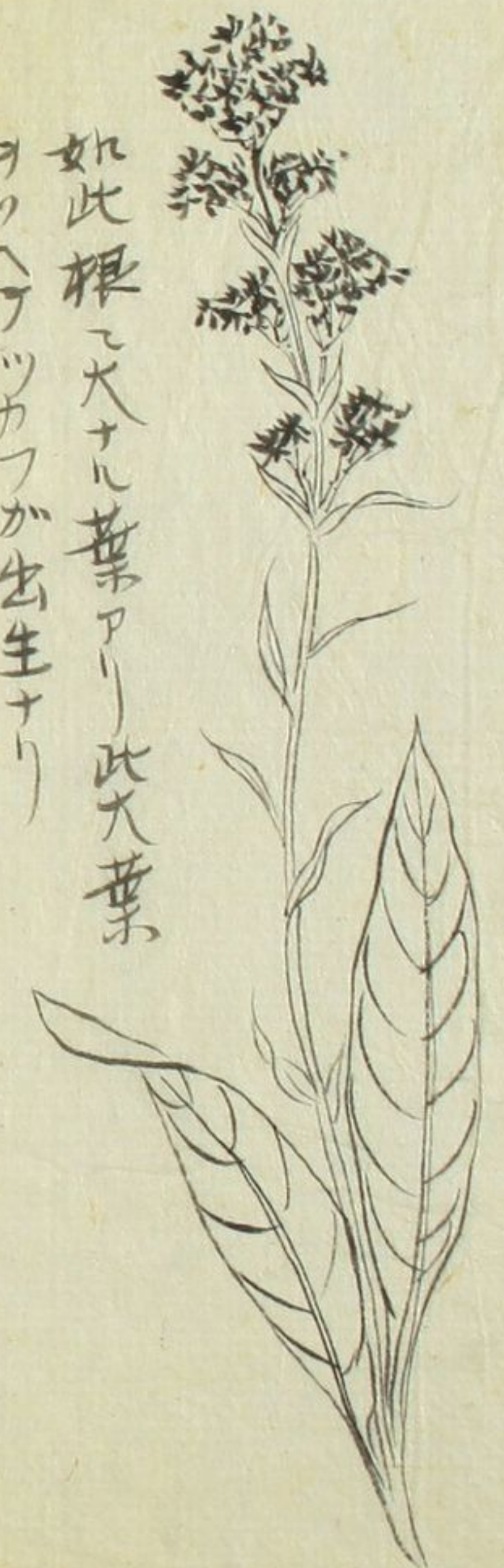
枇 杷

如此箇枝葉共
ツカフ是ノ出生ナ
リ



如此箇葉ワニ枚ヅ、取テツカフヲ
尤モキラフナリ、出生コト
ヒカタシ

此紫蘭 シラン



如此根こ大ナル葉アリ此大葉
ヲツヘアツカフか出生ナリ



如此ノハ葉アル故
多クハ此柳葉バカリニツカフナリ シラン
出生
叶ヒカタシ諸花共ニ同ジ

大輪菊

如此ノビヤカニツカフか出生ナリ



菊ノ産ニヨリテ
花首ノビテ柳葉バカリ多クナリ
短クツカフテハ出生ニ叶ヒカタシ獄門
花トテ大ニ嫌フナリ菊ニカヤラズ
諸花共ニ類ナリ

水仙

如此花ト葉ト
ワケテツカフナシ
出生コトハズ



水仙其俗ニテツカフか出生ナリ

尤葉遣テ別傳アリ

水仙陰中ノ陰ノ花ナリ

花モ葉モ四六ノ数ニ生ズ

夕マクニ三葉五葉アルモ

アリ氏半葉ハカタハ葉

ナリ人ノ舌指ノ如シ

水仙花ノ形サ葩六ツナリ

梅花諸花ノ元陽花ナレバ五ツニサクナリ



蝴蝶花

シヤガ
鳥尾

出生ハ如此帝盤草故

花サキ時アリシラヒニ葉ヲ

ツカフモウレシカラス

五葉ニテハ草ノ緑

取ルトラ多クツカフ故

活花ニテモツカフ人多ク

花咲ク時ツカフベシ

シヤガニテ諸花ツツニ

カリスラ依シヨビテ

貧乏カクシト云フ



如此葉ノモギ
マキカケテツカフヲ
扱キシヤガトテ
大ニキラフ出生コトハズ

系木千草ヲ活ルト虽
 稻穂粟穂ノ五穀ヲ生花
 ツラツアマリ風雅昌ギタル
 一ナリ五穀ハ初穂トテ
 神佛ノ供ニ奉ルモノナレバ
 人倫ノ翫ニセマシキナリ
 千系ノ花ナレバヨクク勤
 辨アリテワカフベキナリ



專嫌フキ枝葉花形

ミキリ ミカクシ
 十文字ノ教





專可嫌花形并花器ノ事

書院向活花中絶シテ中頃紹鴻利休マシテ茶席ニサテリ花ヲ
 イケシヨリ茶花ノミハヤリテ書院ノ活花多クスタリ又今世ノ人
 書院ノ花ト茶席ノ花ノ差別ヲ知ラズ活花ハ茶席ノ
 コトバカリ心得タルモノ多シ又草本ノ出生モワキマヘガタシ
 ヲツラセテ草本ノ出生ノ出生ノ花形ヲ画キテ活方ノ乱リナルヲ
 番シ見切見隠シテ文字ノミカガハシキ形ヲ顯ハシ置
 ヲクク辨ル知ルベキナリ

芍薬
セシダイ萩
シヤガ
尾

生花ノ花器ニ砂物鉢
ヲ用ルノ有ベカラス
近世如此鉢ニ所
生ルアリニカバ砂ノ心
ナルベシ一タイ花モ
不出生ナリ



紫羅蘭花

和名アラセイトリ

如此形飯銅火鉢ナリ
活花ノ花器ニアラス
花モカヤウコトハ生
コトハズ



柳水仙椿



此圖ノ如キハ見切り見隠シ縁モ切シ活花ノスカクモアラズ
 カヤウノ花形ヲ大ニ嫌フナリ



此花形水際モカマハズ花形モ両方へ
 引ハリ月ノ輪ヲミカクスト書ク
 キラフナリナゲ入コトアスナゲヤリ花ナルベシ

梅椿水仙



船ノ花如此ノ花形ハ船ノ活ケ方
 コアラズサカリ枝ヲツカフトモカマウ
 ニ無理ニ折カケテツカフハ出シテ
 ナク自生トハハサカリタル瓜情
 アルコソ舟ノ生ケ方ナリ中ノ卷
 ノ圖式見合有ルベシ

跋

澗谿藪海山林郊野之間草木之多
 四時皆從其性而英華及開花結實
 者亦不鮮也其是以樂山水好風雅
 之人折取貝葉枝之艷絕而多者
 末而投諸之席上一瓶衣衣高用
 悅目有神命之謂活花焉生樹之

始實起于 東山相府公 相子極其
妙定其法也時吾 千葉龍卜先生之
先德以之及叔以傳至于今也先生
姓平族子榮名胤綱字龍卜號松
翁齋播磨赤穂之人也嘗遊行
於大和攝津之間以廣其傳焉後來
于東都而志業益不懈焉

先生之於花也枝葉少鴉不殺從
品者能而效之妙技厚之語居然在
山水之間見自然之風景其所以出
乎人意之外為要矣余後于先生
而學漸獲其趣焉 先生居在
著其書一帙而示于門人遂上諸
梓以貽子後世於其手跋焉

1765
明和二年乙酉春二月
門人五陵柳原源長俊



(等者曰明和二年が明和三年ヲ去ル
キニ三年ニ年ナリ) 明和の桃園天皇ノ年號也

徳大寺殿御免許

播磨國會頭

鳳尾齋龍松



参考書

明和廿九年
丁酉廿六

紀元二千五百辛酉年
於此廿九年丁酉字

陽月之內

凌雲之海松密事

富田里先

寫此三冊

